

2142-02  
**授業科目名/Subject**  
**国際社会学入門**

学科区分/Department	学年/Year	形態/Term	単位/Credits	カリキュラム Curriculum	クラス/担当者 Class/Instructor
国際関係学科 国際文化学科 国際交流学科 国際ビジネス情報学科	1	半期	2	新	服部 慶巨

**■ 授業概要 / Outline**

- 授業のテーマ/Overall Theme for Course  
異文化理解と民際関係の社会学

- 授業のねらい/Goal  
「国民国家」という枠組みでは説明しきれない現代社会を、グローバル且つトランスナショナル的に考察する視点を身に付けることを目標とする。また、その考察を行う際に問題となる(であろう)点についても比較・検討する。

- 授業の方法/Content  
まず、国際社会学という学問の性格を理解し、その学問的性格に基づきながら異文化理解と民際関係の構造・機能などについて考察する。なお、具体的な事例として受講学生にとって身近な例を取り上げつつ、日本と諸外国(特に、日韓関係)との比較・検討を試みる。参考書やプリント、様々なメディアを通じて得られる情報を用い、理解の助けとする。J-POPとK-POPの比較、韓国で放映された日本アニメの映像なども、随時紹介する。

**■ 授業計画 / Teaching Plan**

- 第1回 シラバス授業(講義の方針、展開方法、基礎概念、目標などの確認)
- 第2回 国際社会学とは?(1) 概説
- 第3回 国際社会学とは?(2) 国際関係と民際関係
- 第4回 グローバリゼーションと温度差(1) ナショナリズムとの相違点
- 第5回 グローバリゼーションと温度差(2) 自文化中心主義と文化相対主義
- 第6回 グローバリゼーションと温度差(3) 情報の循環過程
- 第7回 グローバリゼーションと温度差(4) 視聴覚資料による実証(1)
- 第8回 社会変動および文化交流に見られる温度差
- 第9回 文化交流・接触の効果(1) 文化変容
- 第10回 文化交流・接触の効果(2) グローカリゼーション
- 第11回 文化交流・接触の効果(3) フィルタリング
- 第12回 文化交流・接触の効果(4) 視聴覚資料による実証(2)
- 第13回 文化交流・接触の効果(5) 視聴覚資料による実証(3)
- 第14回 補講日(1)
- 第15回 まとめ

**■ 教材 / Teaching Materials**

- 教科書/Textbooks

プリント配布 / Handouts

- 必携参考書/Required reference books

著者名/Authors	服部 慶巨
書名/Title of books	補強版ストレス・スパイラルー悩める時代の社会学
出版社/Publishers	人間の科学社
ISBN	ISBN4822602389
備考/Notes	

- 推薦参考書/Recommended reference books

開講時に指示する / Announced during the first class meeting

### ■ 履修条件 / Prerequisites

単一的(主観的)な視点ではなく、客観的な分析・発言に関心のある学生の参加を希望する。義務ではないが「社会学」を履修していることが望ましい。

### ■ 成績評価 / Evaluation

終講試験と平常点で評価する。

### ■ その他 / Others

截拳道の創始者とされるブルース・リーは、「Don't think. Feel!」(考えるな。感じるのだ!)という名言を残している。この講義も、そのような感覚で参加してほしい。

### ■ 連絡先 / Contact Information

服部 慶巨

- オフィスアワー / 質問・相談は、講義の前後またはEメールで受け付けます。